

## 第14回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

- 1 日 時 平成24年10月26日(金) 18時30分～20時40分
- 2 場 所 千葉市立千城台西中学校 図書室
- 3 出席者 (1) 委 員 16名 \*欠席 6名 鈴木委員、奥田委員、山崎委員、  
中村委員(代理出席:諸橋氏)  
児玉委員(代理出席:佐藤氏)  
栗山委員(代理出席:内藤氏)
- (2) 事務局 5名 \*高須課長、池田主幹、国方課長補佐、小口主査、山崎主査補
- (3) 傍聴者 3名

### 4 報告・議題

- (1) 【報告1】 前回協議会について
- (2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて
- (3) 【議題1】 今後の協議について
- (4) 【議題2】 千城台地区小学校の適正配置について
- (5) 【議題3】 次回開催日時・場所

### 5 会議資料

資料1: 千城台地区・小学校の統合の検討シミュレーションと各団体の主な意見

資料2: 千城台地区・小学校に在籍する児童の居住分布状況

資料3: 千城台地区小・中学校の施設概要

別添1: 「今後の協議について」 会長・副会長提案

別添2: 現行学区での統合シミュレーション

### 6 議事の概要

- (1) 【報告1】 前回協議会について  
事務局が前回協議会での協議の内容について報告し、確認した。
- (2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて  
事務局が前回協議会以降に実施した「各団体への説明と意見交換」の報告を行った。  
また、特に動きのあった団体からの報告が行われた。
- (3) 【議題1】 今後の協議について  
会長・副会長から「今後の協議について」が提案された。協議の結果、下記の5点について協議会として合意された。
- 1 統合時期を平成27年4月として協議を行う。
  - 2 現行学区での統合を検討する。
  - 3 配置においては、「子どもたちにとってのより良い教育環境」の視点を重視する。
  - 4 中学校統合については今後の協議に関連して、必要に応じて行う。
  - 5 事務局は随時情報収集し、地元代表協議会に情報提供を行う。

(4) 【議題2】千城台地区小学校の適正配置について

事務局が「千城台地区小学校に在籍する児童の居住分布状況」「千城台地区小・中学校の施設概要」「現行学区でのシミュレーション」について説明を行った後、協議を行った。

その結果、本日の協議を踏まえ、次回の協議会では、より具体的なシミュレーションを会長・副会長が提示し、協議していくことが確認された。

(5) 【議題3】次回開催日時・場所について

平成24年12月14日（金）18時30分から20時30分まで、千城台公民館で開催することとした。

## 7 発言要旨

### (1) 会長挨拶（氏家会長）

14回目の協議となる。今回は主として、前回までの協議を踏まえて、今後の進め方について、よりわかりやすく、効率的に進めていく方法を議題としていく。活発な討議をお願いする。

### (2) 報告

#### 報告1 前回協議会について

〈山崎議長〉 事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 前回協議会は8月30日に開催され、「千城台地区の小学校統合」について「3つのシミュレーション」を持ち帰って検討した結果を報告し、協議した。

その際に出された意見を整理したのが資料1である。本日は、引き続き「小学校の統合」について協議することになっている。

#### 報告2 前回協議会以降の動きについて

〈事務局〉 前回協議会以降も「説明と意見交換」を継続実施しており、9月30日には第24地区連会長会で前回協議会の報告を行った。10月16日に御成台3丁目自治会館において、就学前のお子様をお持ちの方々を中心に説明と意見交換した。氏家会長、谷野委員、土屋委員も同席された。また、同日、千城台西中学校区青少年育成委員会理事会でも前回協議会の報告と説明を実施した。

〈山崎議長〉 今の事務局の説明について、質問があるか。

〈一同〉 質問なし

〈山崎議長〉 委員からの報告があればお願いします。

〈高野委員〉 千城台北小運営委員会を10月17日に行い、10名が参加した。学校施設の概要と通学路に関する資料を用いて再考したところ、全員がシミュレーションの3番（北4丁目と御成台地区を東小から北小に移した場合の3番）をとということであった。出された意見としては、今日の資料にあるような意見であったが、平成30年度の児童バランスを見ると、1番（現行学区でのシミュレーションの1番）も考えられるという意見もあった。また、「自宅に近い場所に通学できるようになると良い」、「北小の方がぜんそく持ちのお子さんの症状が良かった」、「校庭が広いので北小が良い」、「御成台から北小に通学するのであれば近い通学路を通れるようになる」と良いなどの意見もあった。

- 〈谷野委員〉 先ほど事務局からあったように10月18日に御成台地区で説明会を行った。そこでは、圧倒的に「東小へ」という意見が多かった。北小に今のルートで行くと遠くなり、ほとんどの方が、北小に通わせるのは反対であるという意見であった。
- 〈土屋委員〉 私も同席した。「東小以外では今よりも遠い校になってしまう。東小は現状でも1学年2学級ずつはある」という意見が出ていた。
- 〈高野委員〉 特別支援に通われている方から、今ある特別支援学級の数を統合後も継承して欲しいと言う意見があった。

### (3) 協 議

#### 議題(1) 今後の協議について

- 〈山崎議長〉 はじめに、氏家会長から提案をお願いする。
- 〈氏家会長〉 今までの協議および前回の協議会のご意見を踏まえて、「今後の協議の進め方について」、会長・副会長で相談した。それに基づき、会長・副会長から提案を行いたい。小学校の統合が必要であることは既に合意されており、統合の時期・組み合わせ・場所について協議を行っていくわけだが、まず、次のような認識を確認した。
- 1 統合の時期に関しては、早い実現が望まれる一方、統合後の子どもたちどうしの十分な交流を行うため、また、円滑な開校に向けた準備を行うための期間が必要であり、合意後に開校するまでは1年半程度を要すること。
  - 2 統合の組み合わせの検討に関しては、「北4丁目と御成台地区を東小区から北小区に移す場合」のシミュレーションは、もともと「中学校のねじれを解消すべき」との委員からの要望で作成されたという経緯があるが、前回協議会における意見や、この地区が東小区となっている経緯等を踏まえると、現時点で「学区を動かすことを前提とした協議」は難しいと思われる。
  - 3 統合の場所の検討に関しては、「通学路の安全性や距離」に加えて、日々の学校生活に関わる教育施設・設備等も含めて「子どもたちのより良い教育環境となること」を重視すべきである。  
「防災等、地域活動の拠点としての学校の役割」も考慮に入れる必要がある。
  - 4 中学校の統合については、小学校統合と密接に関わってくる内容であるため、小学校統合についての協議の過程において、必要に応じた協議をすることが大切である。
  - 5 高校2校・大学2校がある千城台地区の教育環境の特色を生かしていきたい。
  - 6 35人学級制5か年計画の進捗状況及び、住宅事情に伴う児童の居住分布の変化など、諸般の情勢変化を可能な限り調査することが必要である。
- この認識に立ち、会長・副会長として次の5つの提案を行う。
- 提案1 小学校の統合時期を平成27年4月として協議を行う。
- 提案2 統合の組み合わせは「現行の小学校区でのシミュレーション」で検討を行う。
- 提案3 統合の場所の検討においては、「子どもたちにとってのより良い教育環境」の視点を重視するとともに、学校の持つさまざまな役割を考慮する。
- 提案4 中学校統合については小学校の統合と関連する内容を含むため、必要に応じて協議を行う。
- 提案5 35人学級制の進捗状況、地域別人口構成の動向など環境変化についても情報収集に努める。
- この提案について協議いただき、確認・合意を取ってから、今後の検討を進めたいと思う。

〈山崎議長〉 今の提案に関して、事務局からの補足説明があるか。

〈事務局〉 提案1について

統合時期の考え方としては十分な交流期間として1年半は必要である。

提案2 統合の組み合わせについて

① 学区の変更については、町内会や自治会の単位全体で総意を取り、要望をあげてもらった後に学区調整委員会にかけ、教育委員会会議で決定していく。

② 「四街道市立吉岡小学校への通学」についてである。

千葉市では他市に学区を変更している場所はない。現在、北4丁目と御成台地区は東小の学区として東小に通学している状況であり、特段の支障がない。

学区変更するためには、四街道市との協議が必要であり、かなり時間的にかかってしまい、現時点で四街道市から応諾を得られるかはっきりしていないという状況である。加えて、吉岡小の所有教室数に余裕はなく、仮に御成台の子どもが吉岡小に通うようになると、教室不足が起こる可能性がある。

また、学区変更できたとしても依然「中学校の学区のねじれの問題」は残る。

③ 区域外就学についても、四街道市と協議を必要とし、時間がかかる。四街道市に照会したところ、確定していない段階での回答は差し控えるということであった。現在、鷹の台と吉岡地区の生徒が、区域外就学で千城台西中に通っている。これは、本来の通学校である四街道市立旭中に通うとなると、通学距離が5kmを越え、国道51号を横断することになることや、過去に交通死亡事故が発生したこともあり、「通学の安全」を理由とした住民の総意が四街道市教育委員会を通じて千葉市教育委員会にあげられたという経緯がある。この申し出を受けて千葉市教育委員会で検討した結果、千城台西中に教室不足が発生しないこともあって、千葉市と四街道市との協定のもと、平成18年度から実現しているものである。

なお、通学の安全と距離ということで、資料2には現在の千城台地区の小学校に通っている子どもたちの居住区を示している。これは、前回協議会が終了後、委員からの要望を受けて作成したものであり、参考にしていきたい。

提案3 子どもたちにとってのより良い教育環境について

先ほど、教育環境についての話があった。その中の耐震補強工事については、平成27年4月以降に学校として使用する建物は、27年3月末までに耐震補強工事を完了するよう整備をしている。

提案4 中学校統合について

以前から指摘されている「中学校区のねじれ」については、中学校を統合すると解消する。現在、西中が9学級（特別支援学級除く）、南中が10学級である。仮に両校を統合すると、平成27年度が最大で18学級となる。以降、28年度は17学級、29年度は15学級、30年度は15学級となる見込みである。また、「小・中学校の間に、子どもたちに2度の統合を経験させない」ためには、「中学校を先に統合する」、「小中同時に統合する」、「小学校の統合1年後に中学校を統合する」の3パターンが考えられる。

提案5 35人学級制について

文部科学省は今後5年間で小学校6年生まで全て35人学級にするという予算要望をしている段階であり、現時点では確定していない。

確定すれば児童数推計も1学級35人で算出したものを示していきたい。

- 〈山崎議長〉 会長・副会長提案と補足説明について質問はあるか。
- 〈諸橋氏〉 現在、3つのシミュレーションで検討しているが、会長・副会長提案だと3番（北4丁目と御成台地区を東小から北小に移した場合のシミュレーション）がなくなるので、2つの案で考えることになるのか。
- 〈氏家会長〉 「御成台地区を北小区に移す」という発想はやめようということである。
- 〈諸橋氏〉 今までの話し合いで一番多かった意見が3番ということであったが、それをどう考えていくのか。
- 〈氏家会長〉 3番は机上ではスッキリと見えるが、実際には御成台地区の反対を押し切ることになり、それをしてまで良いと言えるほどの材料がなく、実現性が極めて困難であると判断した。そのため、それを加えて検討することは必ずしも適当ではないと考えた。現実的な状況を見ながら、資料にある6つのシミュレーション（現行学区でのシミュレーション）で検討してもらいたい。
- 〈大和久委員〉 吉岡小の児童は、全員、西中に通学するのか。
- 〈事務局〉 「通学することができる」ということである。
- 〈大和久委員〉 御成台地区の児童も全員ではなく、可能な人数ならば受け入れてもらえないのか。
- 〈加瀬委員〉 基本的に、御成台地区の保護者は「東小へ通学したい」という明確な姿勢を持っている。
- 〈谷野委員〉 「東小に通学したいが、それが無理で北小まで行くのであれば近い吉岡小に通学したい」という考えである。
- 〈事務局〉 鷹ノ台地区や吉岡地区の児童が千城台西中に通学しているのは、統合とは関係なく、本来の通学学校である四街道市立旭中に通学するには、先ほど説明したさまざまな事情によるものであり、区別して考えなければならない。
- 〈佐々木委員〉 会議の進め方は会長・副会長提案で良いと思う。また、会長・副会長提案の「現行学区によるシミュレーション」では、中学校の統合が行われないと可能ではないものがある。従って、今まで小学校の統合を先行して考えていくとしていたが、中学校の統合についても同時に議論していく時期にあるのではないか。
- 〈氏家会長〉 中学校もある程度考えながら、小学校の統合を考えることが大切になる。従って、中学校の統合も協議しながら、多少、優先的に小学校の統合を考える方向でいかがか。
- 〈大和久委員〉 千城台西小としても同感である。「小中連携」等を考えるにしても、小中についてある程度、並行して考えた方が良い。
- 〈佐々木委員〉 現行学区のままということだが、仮に「千城台地区では学区を全て取り払う」ということは不可能か。自由学区にして、児童数が少なくなってしまった学校を廃校にすることにより、学校の経営方針の工夫や先生方が学校をアピールする必要が生まれ、結果として「魅力のある学校」を作っていくことになくなるのではないか。魅力が感じられる学校を作るためにも、学校を選べるようにならないか。
- 〈事務局〉 全国には自由学区でやっている市町村もあるが、千葉市は学区制をとっている。仮に自由学区制を行うと、児童数推計が成り立たなくなるため、将来の見通しがつかなくなるという点がある。また、現在、学区を単位として、青少年育成委員会等、地域の様々な活動を行っているが、学区がなくなると、そうした活動ができなくなる、支障が出てくるのが考えられる。遠いところから通学する児童が増えることもありえるため、通学路における安全性の心配や児童の負担増も予想される。そういった観点から千葉市では学区制を採っている。

- 〈加瀬委員〉 これからどういう話し合いをすべきかについてだが、「小学校は、ほぼ2校にする」というコンセンサスは得られていると思う。今日は中学校について議論するか、それとも小学校の統合校を検討するかで良いのだが、小学校の統合場所だとかなり時間がかかってしまうのではないか。従って、今日は中学校の統合について話し合っただけがどうか。
- 〈諸橋氏〉 同感である。(現行学区の)6つのシミュレーションから絞って行くとなると、どうしても中学校の統合の可否を話さなければ進められないのではないか。
- 〈事務局〉 いろいろな意見がでてきている。まずは、会長・副会長から提案の合意を取った後に、話を進めていってはいかがか。
- 〈笹川委員〉 会長・副会長提案の2で、現行学区となると、先ほどの自由学区制の可能性がなくなるのではないか。それなら、保護者に「学区が自由ならどの学校に通学させたいか」というアンケートをとって進めていくのも一策なのではないか。学区にこだわると先には進めないとと思う。
- 〈氏家会長〉 「千城台地区の学区をなくす」という提案は、この協議会だけで話し合っただけで可能になる話とは思われない。小・中学校においては、義務教育という観点からも、ある程度の学区制約が納得のいく仕組みとして存在している。「千城台だけ学区をなくす」ことが議論の前提に成立するのかどうかについては、判断しきれない。おそらく困難なことではないか。
- 〈事務局〉 先ほどのくり返しの説明になるが、千葉市としては自由学区制ではなく、「地域の子どもは地域で育てる」という観点や通学安全性なども勘案して、現在、学区制を採っている。
- 〈加瀬委員〉 会長・副会長提案2に理由をつけずに「統合の組合せは現行のシミュレーションで検討を行う」とした方がよい。
- 〈佐々木委員〉 前回、前々回で検討した3つのシミュレーションには、3番(北4丁目と御成台地区を東小区から北小に移した場合のシミュレーション)以外にも1番や2番があり、そこに戻れば良い話ではないか。しかし、そこに今日の資料にある「現行学区でのシミュレーション」の4番や6番が新たに出てきたからおかしくなったのではないか。  
「平成25年9月までに要望書を提出」とあるが、それまでにあと何回の協議ができるのか。今までのペースだと、これは無理である。
- 〈氏家会長〉 我々協議会委員だけで議論をして結論を出すということであれば、時間もかからずにはっきりと出せるであろう。しかし、委員の皆さんが所属している団体の方々への報告や意見聴取を行うといったプロセスや時間は必要である。私の認識では、目標として平成27年4月に統合校を開校するとすれば、平成25年9月までには協議会として具体的な結論をまとめなければならなくなり、それを意識してやっていきたいと考えた。そのためには、各委員における住民との対話力も必要であり、保護者や住民の方々にも、どのくらい地元代表協議会の意向が浸透し、理解が得られるかということとの兼ね合いになると思う。また、2ヶ月に1回のペースでも4～5回の協議をすることができる。
- 〈佐々木委員〉 今は報告事項があるため、2ヶ月に1度になっているが、前回から今回の期間は報告することがなかったので、そのままの状態になっている。保護者にすると、もう少し話が進んでこないかと報告会でも同じ話の繰り返しになってしまう。この会議をもっと密にして、「将来的かつ具体的な方策」を提示していかないと報告会を実施して意味がない。平成27年4月に統合(開校)するのであれば、協議のペースをあげるか、個別に学校

単位で会議をするといった方法をとらなければならないと思う。

〈大和久委員〉 西小は、報告事項を持ち帰り、保護者に声をかけて毎回報告をするようにしている。そして、すでに説明したことでも些細なことでもかまわないので発言いただき、わかることは私が回答するようにしている。今までに4回、座談会形式で実施しているため、同じ内容が出てくることもあるが、振り返る意味でも決して悪いことではないと思っている。学区を動かすことも話題に出てきているが、教育委員会や青少年育成委員会の思いを入れると少々乱暴過ぎる気がするため、折衷案がないかと思う。一方では、もともと千城台地区には小・中学校のマンモス校を1校作る話もあったので、もし実現していれば千城台には学区はなかったはずである。従って、一切無理であるということでもないのかもしれない。

先週の金曜日に打合せを行った。西小としては数あわせ的な統合ではなく、「小中連携を柱とした学校を」という考えは変わっていない。ただし、ある程度の数あわせも必要ではないかという意見もあった。また、「魅力ある適正配置」を考えた時に、必ず良い先生に来ていただくことが必要だと訴え続けていたが、教育委員会が千城台に良い先生を投入せざるを得ないような幹を立てて、バルーンを立ち上げて、千城台の地域の皆様の思いで教育委員会と話し合っ合意を得てやって行くやり方もあると思う。

植草学園が若葉区と提携、小・中学校や千城台高校、情報大学もあることから文教地区であるという大きなバルーンを上げてもいいのではないかと考えている。その中で、地域の方々が、学校に対してどれだけのことができるかを考えていったら、おもしろいことができるのではないかと思う。適正配置は子どもが少なくなってしまったためであるが、後ろ向きの雰囲気になるのではなく、千城台地区ならではのさまざまな体験学習を行うなど、おもしろくできる手立てもあるのではないかと思う。

〈山崎議長〉 さまざまご意見が出たが、ここで、会長・副会長の提案1～5について確認したい。この提案を「協議会の合意」としてよろしいか。

〈加瀬委員〉 記載はもっとシンプルにした方が良いと思うが、内容としては良いと思う。

〈山崎議長〉 記載については了解した。では、5点を協議会の合意としてよいか。

〈一 同〉 異議なし。

〈山崎議長〉 では、以下の5点を合意する。

- 1 統合時期を平成27年4月として協議を行う。
- 2 現行学区での統合を検討する。
- 3 配置においては、「子どもたちにとってのより良い教育環境」の視点を重視する。
- 4 中学校統合については今後の協議に関連して、必要に応じて行う。
- 5 事務局は随時情報収集し、地元代表協議会に情報提供を行う。

これに沿って、今後の協議を進める。

## 議題（２）千城台地区小学校の適正配置について

〈山崎議長〉 まず、事務局から資料の説明をお願いします。

〈事務局〉 資料２は現在の千城台地区の小学校に在籍する児童の居住分布状況である。図中の各ポイントは民家のある端の場所を記しており、そこから小学校までの距離を下表に示している。目安として参照いただきたい。

資料３は、表下部欄に「地域としての機能」として子どもルーム、避難所としての指定防災施設等の設置場所について各学校の状況を示してある。「各学校はすべて避難所として指定されている。」「北小には備蓄コンテナ、南小には備蓄倉庫がある。」「子どもルームは校舎内にあるもの、学校敷地内の別棟にあるもの、学校敷地外にある」ことがわかるように記載してある。

次に会長・副会長提案の別冊資料を説明する。「現行学区での統合シミュレーション」ということで、児童数・学級数の部分については以前にも提示しているものである。今回は右側部分に、それぞれの組合せにおける「通学、配置、施設・設備に関する状況」を示している。

〈山崎議長〉 今の説明について、質問を含めて協議に入る。

〈大和久委員〉 資料３を見ると、北小に特別支援学級が１０学級あるということだが、この学級に在籍している児童のうち、千城台地区から通っている児童は何人ぐらいいるのか。また、教育委員会として、特別支援学級の配置をどのように考えているのか。

〈事務局〉 まず、北小の特別支援学級についてであるが、千城台地区から通学している人数は、知的の学級が１１名、自閉・情緒の学級が３名、言語・難聴の学級が１１名である（平成２４年９月現在）。

次に、特別支援学級の配置についてである。千葉市には養護学校・第二養護学校という特別支援教育を専門とした学校があり、加えて、市内小学校のほぼ半数に特別支援学級を設置している。現在、特別支援を必要とする児童の数が増えてきているが、過去は設置校自体が少なかったため、どうしても学区を越えて通学するという状況があった。特別支援学級においては遠距離の通学負担を軽減するために「エリア方式」という考え方が取られてきた。しかし、現在では必要に応じて各学校に設置していく方向にはなっているため、各学校で支援を必要とする児童数を見ながら、担当課（指導課）で検討し、設置を行っている。北小は言語・難聴の学級が４学級と多いが、防音装置などの設備が必要であるため、千葉市内でも「２つの行政区に１校」程度の配置になっており、このことから、北小の人数が多いという状況になっている。ただし、言語・難聴の学級についても、児童が遠くから通わなくても済むような方向で検討している状況にある。また、インクルーシブ教育という「障害のある児童生徒も含みながらいっしょに学んでいく、教育していくことが大切である」ということで、文部科学省も職員の配置等を考えてきている。

〈來住委員〉 千城台地区に一番近い場所で、特別支援学級がある小学校はどこか。

〈事務局〉 小倉小学校である。

〈來住委員〉 かつては、特別支援を必要とする保護者は、みつわ台地区の小学校に通学させるか、北小に通学させるかであったと記憶している。そして、「いい先生がいる、人気のある」ということで北小を選び、遠いところから通学をしていた。そういう経緯を踏まえて、



通常学級も含めて学区の問題はあるが、学校自体が人気のある、子どもたちのためになる学校を積極的に作っていかないといけない。

また、この流れで行くと来年の9月までにまとめることは難しいと思う。中学校で毎回報告すると、新たな展開がないため、同じ内容になり保護者の熱が冷め始めている状況にある。統合の場所については、人数割りや教室の数もあると思うので、もう少し細かい情報を提示することができるのではないかと思う。その辺を究極に詰めていく必要がある。教育委員会も、その結果として2～3択のような形で資料を出して欲しい。

〈内藤氏〉 栗山委員からは、「人数が増えることによって、子どもたちがたくさんの経験をできるようにすることの大切さを一番に考えて欲しい。子どもたちのことを一番に考えた統合を考えて欲しい」と伝えられている。

〈酒井委員〉 この協議会は、子どもたちが少なくなってきたので統廃合をすることで、子どもたちのための学校にし、地域も活性化させるための会合であるはずだ。しかし、残念ながらいつも話が堂々巡りして進まないという感じがする。前回・前々回で協議したシミュレーション1番や3番ということで皆さんの意見があがってきているので、そのあたりの意見を中心に話を進めていってはどうかと考えている。

〈佐藤氏〉 本日は代理出席のため、ご意見を拝聴して報告していきたいと思う。

〈多田委員〉 会長・副会長提案に賛成である。来年9月までにまとめるためにも、もう少しピッチを速めたり、メンバーを絞ってたたき台を作成してもらって検討した方が良いのではないか。会長・副会長案にある「現行学区でのシミュレーション」の中でも、バランス等を考えたらもっと絞り込むことができ、それを協議会で話し合っていたらどうか。中学校の統合については、「統合するか、しないか」の選択肢しかない。また、それによって小学校の方も考え方が変わってきてしまう。中学校の方を先行して検討した方が良いと思う。

〈谷野委員〉 今回のポイントは御成台地区の方々の意向であり、そこでは通学路に関する意見しか出てきていない。吉岡小のように、今までよりも近くなるとか、安全な通学路が造られるなど、地区の方々を説得できるだけの魅力的なものがあれば話は変わってくると思う。

〈鶴岡委員〉 現在、吉岡小を卒業して数名が西中に通学している。そのことを考えて、御成台地区の何人かを吉岡小で引き受けてもらえたら、話は進んでいくと思う。学区制がなくなれば、理想的な学校の体制ができるのかもしれないが、学区制である以上はやむを得ない。

〈谷野委員〉 会長・副会長提案にもあったが、御成台地区の方々からすると、「中学校区のねじれ」の問題については、中学校で新しい友だちができるのでかまわないということであり、やはり通学路についての意見が主になっている。

〈佐々木委員〉 「学区のねじれ」により西中に通学しているという話については、関係がある人から見ると大きな問題となるようである。「西小や北小では行っているのに、東小からくる子は知らない」とか、「東小での問題を西中に持ち込む」というような発言がある。学校側の対応もあると思うが、そういう経験がない方にとってはまったく問題にならないが、聞いている話の中ではそのような問題もあるようである。

〈大和久委員〉 そういう話はきりがいい話である。通学距離を外してでも、通学したくなるような「魅力的な学校」を作らなければいけない。

〈高野委員〉 もし、「御成台地区が学区外通学を認めてもらえるなら北小でも良い」となった時に、千葉市として学区を外すために自治会の総意をとる所までやって行く事ができるのだろうか。学区変更するには、かなりの時間を要することになるのだろうか。

- 〈事務局〉 教育委員会は学区制を大前提に立ってやっていく立場であり、維持する立場である。従って、教育委員会が積極的に学区変更するために動くことは適切ではないと考える。なお、学区変更する手続き的には、該当する地区（町内自治会単位）で、一部の方の意見ではなく、住民の総意としての要望を教育委員会へその要望を提出することが始まりである。それを受けて、通学区域調整委員会での検討、教育委員会会議での決定を経ていくこととなる。
- 〈佐々木委員〉 今までの協議を通して、いくつかの条件を踏まえてシミュレーションを絞った結果、現行学区の場合では今日示された6つのシミュレーションがある。この6つのシミュレーションから、組み合わせないにおける人数のバランス、平成30年度までに単学級の学年ができないこと等を考え合わせると、シミュレーションの5番になるのではないかと。公共施設として避難場所の割り振りや、学区を替えない、隣接している小中の連携のしやすさ等も踏まえると、5番のシミュレーションがベストであり、中学校が統合して1つになれば収まる。5番に絞って話を進めた方が、平成27年の開校に向けて近づけると思うのでいかがか。
- また、「学校としての魅力」を盛り込んだ形で要望書に記載して提出する。その後は、千葉市が受け入れるかどうかということで良いのではないかと。「地域と学校が一体となって案を出しているので前例を作れば良い」と要望書に記載し、それを市が受け取ってもらえるかどうかで、千城台の学校の将来が変わっていくことになるのではないかと。
- 〈加瀬委員〉 3番と5番を考えると、5番だと戸建て住宅と集合住宅のバランスがうまく入っていて、論理的にはいいと思う。
- 〈事務局〉 資料3の右側部分にさまざまな項目をつけた。これは、それぞれのシミュレーションにおいての現状を理解していただくとともに、この協議会として「どの項目にウェイトを置くのか、あるいは順位をつけるのか」を議論していただければという意図からである。前回まではここまでの項目と現状は示していなかった。今、佐々木委員と加瀬委員からご意見をいただいたが、今回は、本日の協議を踏まえて、重視する項目とその順序、それに従って検討して絞り込んだ案を「たたき台」を提示して協議するというのでいかがか。
- 〈山崎議長〉 今の内容でよろしいか。
- 〈一同〉 異議なし。
- 〈事務局〉 では、それに付随して、新たに提示してほしい資料があれば出していただきたい。次回協議会で示したい。
- 〈笹川委員〉 それぞれのパターンで小学校が統合した時に、西中・南中の生徒の数が何人ずつになるかがわかるデータを記載していただきたい。
- 〈事務局〉 両中学校の推計と、中学校を統合した場合の生徒数・学級数の推計を提示するというのでよろしいか。
- 〈笹川委員〉 願います。
- 〈事務局〉 了解した。次回協議会で提示する。
- 〈氏家会長〉 今は学級数をどうするかという議論が中心になり、どういういい学校にするかという議論にはなっていない。ただ、元々がそういう流れなので、後追い論になってしまってもやむを得ないが、以下について、事務局に資料作成や情報提供を要望したい。
- 1点目は、魅力ある千城台地区の学校をどう作るか、あるいは、既存の施設をどういうように活用できるのか。

2点目は、小中連携や一貫教育についてはすでに話に出てきているが、現実統合するときに「現存の施設を最大限に有効利用して、魅力ある学校統合につなげていくような要素を組み合わせたプラン」ができないものか。

我々が各団体で話しをすると断片的なものになって、尻切れトンボになる可能性がある。そこで、住民に説明する際に説得力のある説明ができるように、こういうプランが千城台地区において考えられるという構想やアイデアを事務局で総合的に考えていただき、整理して提示してもらいたい。

3点目は、今後5年間に全学年35人学級になったとき、今まで提示されてきたシミュレーションの学級数がどう変わるのかを示していただきたい。

現在、文部科学省では小中全学年35人学級を5か年で実施し、教員数も増やしていこうとしている。最近は、少人数教育の見直しも行われ始めており、子どもの学力の向上やいじめの解消といった観点から教育が見直されてきている。

4点目は、A3版4～5ページ程度で見やすい形に整理した「地元代表協議会だより(第3号)」を作って、本協議会として地域住民に配布できるよう検討してほしい。

ここまでの協議の現状、今後に進もうとしている議論の行く末、何が問題でどういう議論をしているのか等、地元代表協議会だよりという形で整理して全世帯に配布し、全住民が共通の情報の中で議論されていくという状況にしたいと思う。つまり、千城台地区全員が学校適正配置の問題を共通に承知しているという中で、我々が専門的な立場からあるべき方向を示していく形をとっていきたい。配布については、第24地区連会長会を通して自治会会長にお願いしていきたい。なお、次の第24地区連会長会は12月中旬に予定しているので、そこで了承を得た後、年内に全世帯に配布していきたい。

5点目は、文部科学省における小・中学校の教育行政についての動向を整理して説明していただきたい。

〈事務局〉 了解した。会長・副会長にも相談して準備を進め、次回協議会で示したい。

### **議題(3) 次回の開催日時と場所について**

〈事務局〉 今までは2ヶ月に1回ということであり、12月14日(金)18:30からと考えてきたが、先ほどの議論でピッチを上げてというご意見もあった。いかがするか。

〈一同〉 12月14日(金)で異議なし。

〈山崎議長〉 次回は12月14日(金)18:30から、千城台公民館で開催する。

〈石原委員〉 提案だが、今日のように「ロの字型」の座席配置の方が話しやすくいいのではないか。

〈事務局〉 ご意見として検討する。

また、次回協議会では、要望のあった以下について資料提示する。

- ・両中学校の推計と、中学校を統合した場合の生徒数・学級数の推計
- ・魅力ある千城台地区の学校をどう作るか、既存の施設をどのように活用できるか。
- ・「現存の施設を最大限に有効利用して、魅力ある学校統合につなげていくような要素を組み合わせたプラン(案)。
- ・全学年35人学級になったときのシミュレーション
- ・「地元代表協議会だより(第3号)」(案)
- ・文部科学省における小・中学校の教育行政についての動向

#### (4) 連 絡

- ・本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。  
その際、ご意見が足りなかった部分については欄をつくるので記載していただきたい。
- ・事務局に説明や意見交換の要望があれば、お伺いするのでご連絡をいただきたい。

#### (5) 会長挨拶（氏家会長）

- ・小学校5校を2校にする、あるいは3校にするということについて、特に2校にすることをこだわっているわけではない。要は「子どもたちの教育が良い環境になるようにする」ということが願いである。今後も、いろいろな角度から検討をお願いしたい。